



平成 23 年 11 月 16 日

株式会社海遊館 広報チーム
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551
<http://www.kaiyukan.com/>

(担当：村上、齋部、西村、田井、鈴木)

どうして“ペンギン”って呼ばれたの？

特別企画展「ふしぎ? いっぱい! ペンギン展」を開催

実物標本でペンギンの触り心地を体験できます

大阪市港区の海遊館では、平成 23 年 11 月 18 日（金）から平成 24 年 1 月 16 日（月）まで、館内 5 階企画展示室にて、特別企画展「ふしぎ? いっぱい! ペンギン展」を開催します。ペンギンは、かわいらしい姿が人気ですが、一般にその生態はあまり詳しく知られていません。本企画展では、実物標本を用いて、触ったり、においを嗅いだりできる体験型展示物を設置し、映像やイラストとともに、不思議なペンギンの生態をわかりやすく解説します。

ペンギンは、その特徴的な体型から、様々な場面でキャラクターとしても利用されることが多く、広く親しまれていますが、ペンギンの詳しい生態については意外に知られていません。

今回の「ふしぎ? いっぱい! ペンギン展」では、ペンギンたちの本来の生態や能力などについて、骨格標本の展示や、実物の羽に触れてペンギンの感触を体験したり、実物大のペンギンの卵のレプリカを用いて、海遊館のペンギンたちの卵の大きさや重さを比較できる体験型展示を設置し、イラストパネル等でわかりやすく紹介します。また、国立極地研究所の研究員が実際に南極で撮影したペンギンの子育ての様子や、ペンギンにビデオカメラを付け、水中での行動を記録した貴重な映像資料もご覧いただけます。

さらに、一日に 3 回、飼育係員によるペンギンの解説を行い、お客様からのご質問にもお答えし、不思議な生態がいっぱいのペンギンとその生息環境について、より関心を持っていただきたいと考えています。



実物の羽に触れることができる標本展示
(イメージ画像)



「足の上で赤ちゃんを守る」
実際に子どもたちが体験できる展示
(イメージ画像)

本企画展示でのペンギンの生体展示は行いませんが、館内「南極大陸」水槽にて、アデリーペンギン、ジェンツーペンギン、オウサマペンギンを飼育展示しています。



(「ふしぎ? いっぱい! ペンギン展」会場イメージ)

【特別企画展「ふしぎ? いっぱい! ペンギン展」開催概要】

開催期間：平成23年11月18日（金）～平成24年1月16日（月）

場 所：海遊館5階企画展示室

料 金：海遊館入館料に含む

展 示 物：実物標本（ペンギンの羽、ペンギンの骨格など）

体験型展示（“羽を触ってみよう”、“においを嗅いでみよう”、“ペンギンの雛
になってみよう”など）

映像展示（南極で撮影されたペンギンの子育ての様子など）

展示解説：一日に3回、ペンギン担当の飼育係員が、企画展示室にて解説を実施し、
お客様からの質問にも回答します。

時間：午前11時～、午後2時30分～、午後4時45分～（各回5分程度）

【主な展示内容】

《ペンギンは寒い場所が好き？》

世界には、18種類のペンギンがあり、その多くは、南極を中心とした寒い地域に分布していますが、アフリカ南端や赤道直下のガラパゴス諸島にも生息する種類がいることなど、ペンギンの生息地について紹介します。



生息環境を画像とイラストで紹介

《骨の違いを比べてみよう！》

オウサマペンギンと空を飛ぶ鳥オオフルマカモメの骨格標本と、骨の構造を表したイラストを用いて、いかにペンギンが水中生活に適した体の構造をしているかを紹介します。



オウサマペンギンの骨格標本



オオフルマカモメの骨格標本

※ 骨格標本：大阪市立自然史博物館より借用

《ペンギンの子育て》

ペンギンは一夫一妻制の繁殖生態を持ち、コロニーと呼ばれる大きな集団繁殖地をつくります。オスとメスが交代で卵をあたため、つがいで協力して子育てを行います。親子は、鳴き声でお互いを認識し、親鳥は自分の雛だけにエサを与えます。国立極地研究所の研究者が実際に南極で撮影した、アデリーペンギンの子育ての様子や、海遊館の飼育係員が撮影



南極で撮影されたアデリーペンギンの様子
※映像提供：国立極地研究所 渡辺 佑基氏

した当館でのペンギン達の子育ての様子などを、貴重な映像とイラストで紹介します。